２１－１０　男女共同参画推進専門委員会議事概要

日　時　平成２２年2月１７日（水）９：３０～１０：２５
場　所　総合研究棟Ⅱ　第２会議室
出席者　後藤理事
　　江成、大西、冨田、松村、出口、花見、石阪、水落、中西、鈴山、総務部長

◎　前回議事概要の確認
　後藤理事から、事前にＥ－ｍａｉｌで確認した２１－９男女共同参画推進専門委員会議事概要については配付資料のとおり記録にとどめた旨の報告があり、了承された。

Ⅰ　検討事項
１．「男女共同参画　報告会＆講演会」について（資料１）
　鈴山コーディネーターから、「資料１」に基づき、１月２９日に開催した「男女共同参画　報告会＆講演会」の実施状況について説明があり、反省点や今後の課題について意見交換を行った。
◇主な意見
●学部毎に報告した内容の集大成として最終の報告会と、今後の課題を先取りする形で講演会、シンポジウムを開催した。日程は早くから決まっていたが、具体的内容の決定に時間を要したため参加者への呼びかけ期間が短く、教員の参加が少なかった。委員が総力を挙げて開催し、運営・内容面では上手くいった。講師の渥美氏には、外部の情報をいただくと同時に大学の情報を持ち帰ってもらうことができ、本学のアピールもできた。来年度も一年間の活動の総括として同時期に開催したいと思っているが、その際には多くの教員が参加するようにしなければならない。
●アンケートの意見にもあったが、シンポジウムに事務職員が参加すれば違った展開になったと思われるので、今後の参考にしたい。回収したアンケートの数は少ないが、前向きな内容である。
○事務職員向けのワークショップや小集会的なものを企画しても面白い。教員の参加が少ないことについては工夫が必要だが、総じて８０名の参加があったことは成功と思う。長く時間がかかる取り組みでもあり、まずは聞いてもらえたことが成果である。
○ワークライフバランスというテーマ設定が良かった。参加者も熱心に聞いており、会場の雰囲気も良かった。聞いた限りであるが、参加者からは好評だった。
○教員の参加が少なかったことからも、各部局の幹部クラスの先生方に率先して参加して欲しい。
○講演も興味深い内容だっただけに、いろいろな人に聞いて欲しかった。「男女共同参画」というだけではどこか他人事という感じで、なかなか講演に足を運んでもらえない。仕事は増えるが、小さな催しを部局毎に企画させるなど、多くの人を巻き込み、実際に携わらせることで中味を知ってもらうと理解が広がると思う。
○教員が集まらない原因に、「男女共同参画」を当たり前と心得てしまっていることが考えられるので、例えば、意識調査の「自由回答」にあった様々な意見について本音で討論するといった、インパクトのある企画をしてはどうか。
●「自由回答」から本学の課題を読み解く必要はある。報告書に載せるかどうか検討が必要だが、典型的なものをピックアップして挙げる必要はあると考えている。
○学部長や専攻長から声をかけてもらったが参加者が増えない。渥美氏の講演の内容を聞いて非常

にいい取り組みだと思うので、教員方にも身近なテーマに感じてもらえるようにしなければならない。パンフレットの配布等もやった方がよい。

○「男女共同参画」という言葉に対して、それぞれの人が思っているイメージにズレがある。

○「男女共同参画」は英語では「gender equality」という。

●男女共同参画社会基本法を制定する際の議論に法の名称を「男女平等」とするべきという主張があったが、実質的な「男女平等」を実現するためには、男女が公的・私的を問わずあらゆる分野にともに参画することが重要であり、互いに協力して新しい社会をつくるという意味合いを強調して、「男女共同参画」とした。

●報告会・講演会の開催にあたり、準備・調整や会場設営では事務の尽力があった。

２．平成２１年度男女共同参画推進専門委員会報告書について（資料２）

鈴山コーディネーターから、「資料２」に基づき、男女共同参画推進専門委員会報告書のタイトル、内容、スケジュール等について説明があり、検討の結果、了承された。

◇主な意見

○構成の順序を変えたらどうか。講演会やシンポジウムを前の方に持ってくると読みやすい。

○今年度の活動の特徴をクローズアップしたりページ数を抑えたりすると読みやすい。

○報告書の次になるが、男女共同参画に関する諸制度の利用についてのハンドブック作成もある。

○大学関係者や専門家であれば三重大学の具体的な活動が知りたいと思い、そうでない方は講演内容を先に読みたいと思うなど、読む人によって異なる。委員会活動の報告書とするならボリュームを増やすべきで、読み物にするなら短くコンパクトにわかりやすく、ということになる。どこにどういう目的で配布するのかによって違ってくる。

●今年度は委員会が本格的に活動を始め、今回の報告書は本学の記録として第一歩となるものなので記録性を重視したい。ただ、読んでもらえる工夫は非常に大事なので、パンフレット等を出すのは効果的である。短時間勤務制度が確実にまとまった時点で配布するのも良い。

○この一年間の委員会の取り組みと目標を、最初に箇条書きにして説明するとよい。

○記録のみならず、部局毎の報告会での報告内容も掲載して欲しい。

●「あいさつ」又は「はじめに」として委員会活動を概括する。「委員会報告」にはリーディングの文章をつけ、委員会がどういう活動をし、どういう方向性にあるという説明を入れる。

○「ワークライフバランスを目指して」という副題を付けたら良い。

○ページ数を減らしても印刷部数を増やして広く配布できるようにしたらどうか。

●ページ数と印刷部数は予算の範囲内となる。

３．その他

な　し

Ⅱ　報告事項

１．その他

な　し

以　上